海外派遣研究助成事業による研究の成果

研　究　者　氏　名	小杉　和博
所　　属　　機　　関	国立がん研究センター東病院
・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会･会議名	24th IPOS World Congress of Psycho-Oncology 第24回国際サイコオンコロジー学会
渡　　航　　期　　間	自　2023年8月30日 至　2023年9月5日
・研　　究　　内　　容 ・国際学会・会議内容	COVID-19パンデミック前後の未成年の子供を持つがん患者における孤独感の比較：オンライン横断調査

研究成果　（　要約：800字　）

新型コロナウィルス感染症(COVID-19)のパンデミックにより、感染拡大を防ぐためにソーシャルディスタンスなど人と人との接触を避ける手段が世界中で採用された。その結果、様々な世代やグループで、COVID-19パンデミックの前後で、孤独感が増加していることが報告されている。しかし、これまでがん患者を対象とした調査は報告されていなかった。我々はCOVID-19パンデミック中に横断調査を行い、COVID-19パンデミック前の調査と比較した。対象は、18歳未満の子どもを持つがん患者で、オンラインピアサポートグループを通じて募集された。合計233名の患者が対象となり、うち女性は83.3%、平均年齢45.4歳であった。患者の高孤独感の有病率は37.3%であった。多変量解析にて背景因子を調整したところ、パンデミック前とパンデミック中の未成年の子供を持つがん患者の高孤独感の有病率に有意な差は認められなかった。本研究はCOVID-19パンデミック前後のがん患者の孤独感を信頼性・妥当性の確認された尺度を使用して評価・比較した初めての研究である。

他のセッションでは、我々の研究と同様の調査対象である、未成年の子供をもつ患者への心理社会的サポート手段を開発した研究の報告があった。幼い子どもを持つがん患者は世界的に増加しており、そのサポートは喫緊の課題である。介入は修士以上の学位を取得した心理士によるもので、日本での実施は困難が予想されるが、開発者と直接ディスカッションする機会を持て、我々の研究の方向性も相談でき、大変有意義な機会となった。